

2024年 石垣市観光レポート

令和7年5月21日
石垣市企画部観光文化課



2024年 石垣市観光レポートの目的

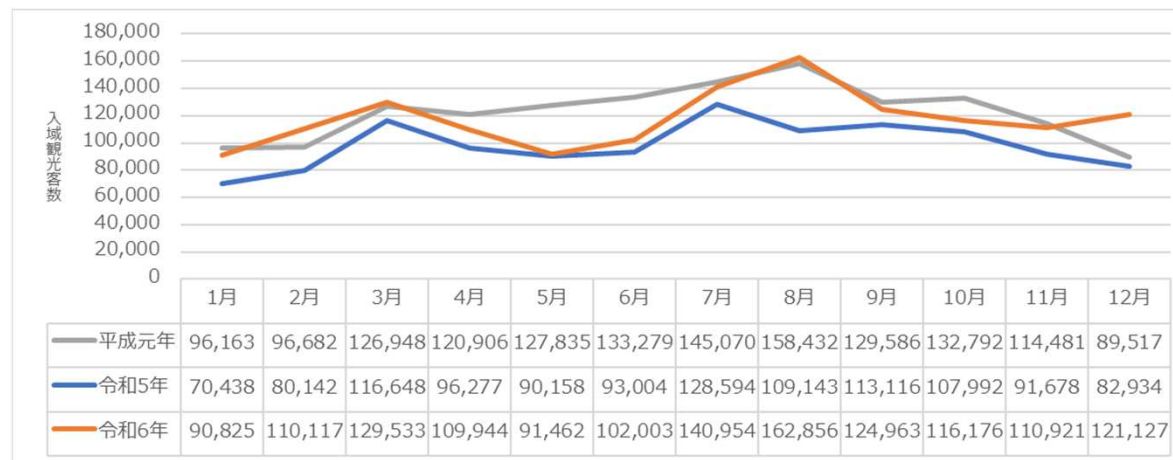
石垣市では、毎月の入域観光客数について推計をホームページで公表しており、観光動向の把握と共有を継続的に行っています。本レポートは、その年間のまとめとして作成したもので、市民や観光関連事業者の皆さまにとって実態把握と今後の取組の一助となることを目的としています。今後も、年ごとに観光動向を総括するレポートを発信していく予定です。

本レポートでは、石垣市における2024年の観光動向を振り返り、年間を通じた観光客数や消費額の推移、来島手段の変化、気象要因などのデータをもとに多角的な分析を行っています。観光に関わる市民や事業者の皆さまが、実態を把握し、今後のサービス向上や施策検討に活用いただくとともに、地域全体での観光資源の活用や受入環境の整備に向けた共通認識の形成に資することを目指しています。

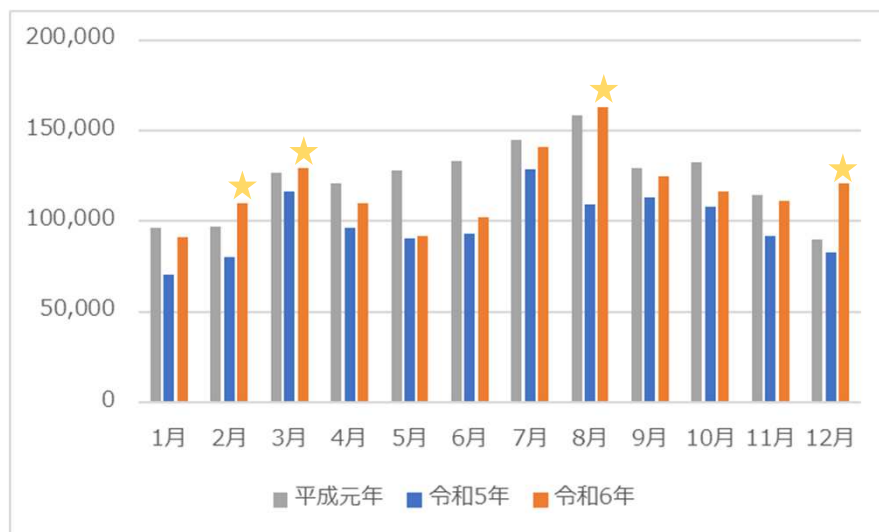
入域観光客数は全ての月において前年を上回る

令和6年（2024年）の年間観光客数が約141万人に達し、前年の令和5年（約118万人）から23万人の大幅な増加（前年比 20%増）となりました。これは、コロナ禍以降で最も高い水準であり、過去最多だった令和元年（2019年）の147万人に迫る勢いです。

◆入域観光客数



◆入域観光客数

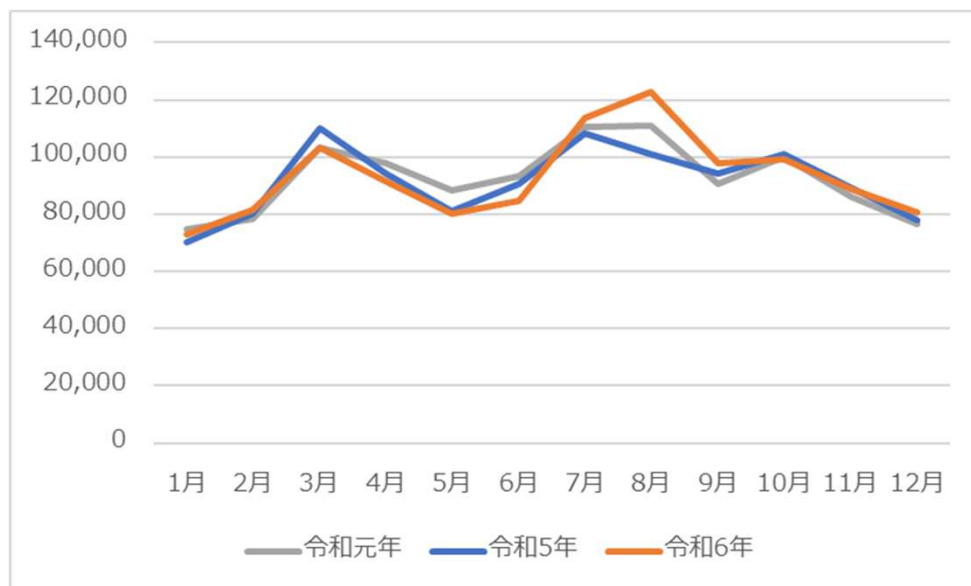


各月の動向を見ると、2月・3月・8月・12月の4か月で過去最高の入域観光客数を記録したほか、全ての月で前年を上回る結果となっており、年間を通じて安定した回復傾向が見られました。

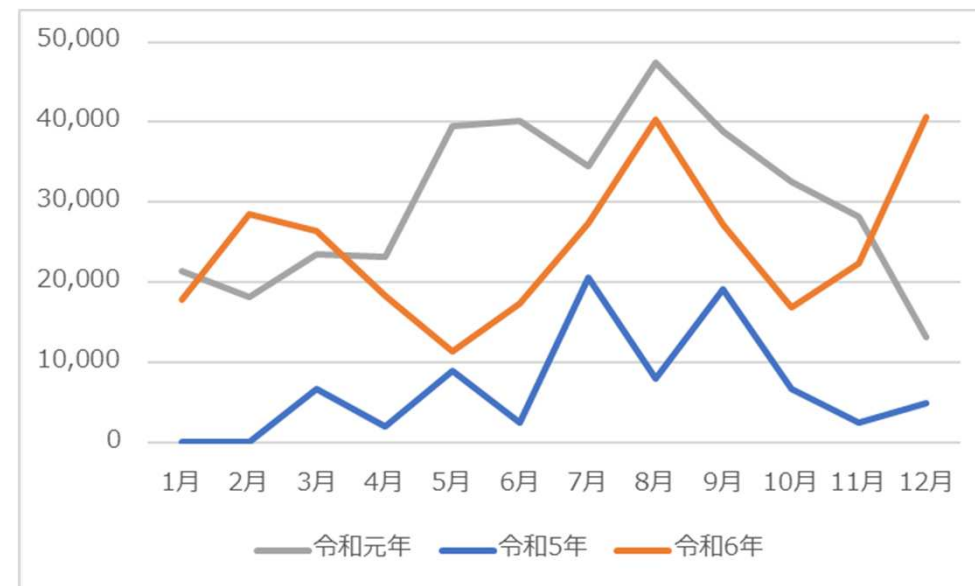
空路の利用は令和5年（2023年）と比較して大きな変動はなく、おおむね同水準で推移しました。一方で、海路による来島者が大幅に増加し、特にクルーズ船の寄港が回復したことにより、観光客全体の増加につながりました。こうした背景から、観光の回復においては、空路だけでなく海路の果たす役割が大きくなってきていることがうかがえます。令和6年（2024年）の国際線定期便は引き続き運休が続きましたが、再開に向けた動きが進められています。一方で、海外からのクルーズ寄港は徐々に回復傾向にあり、観光の手段として一定の役割を果たしています。

※国際線定期便は令和7年4月以降、順次再開。

◆入域観光客数（空路）

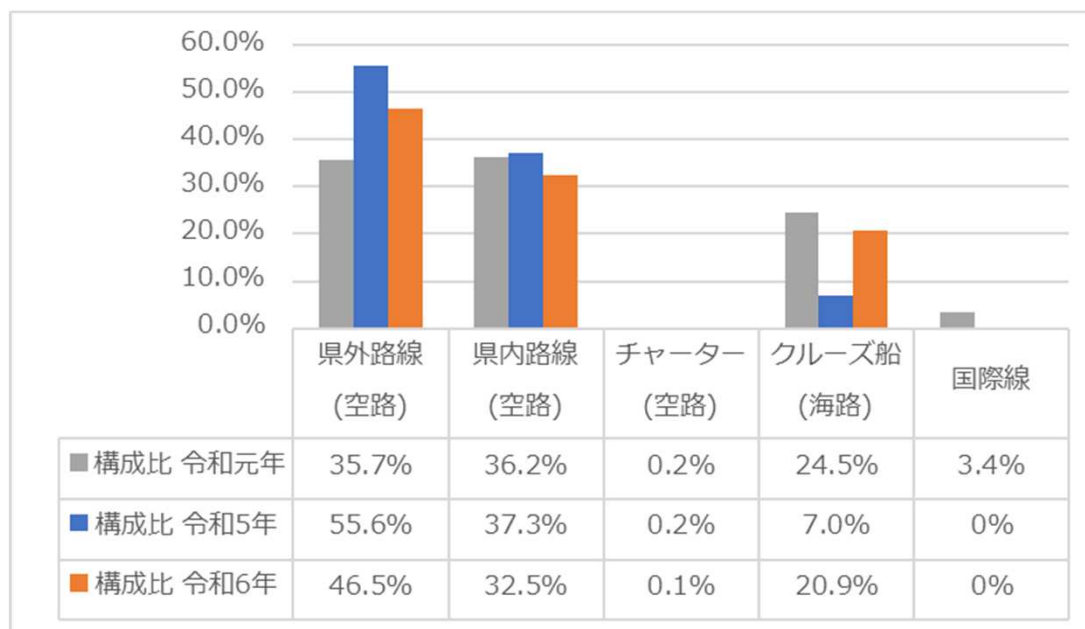


◆入域観光客数（海路）



来島手段別構成比を見ると、空路（県外・県内路線）は全体の79.0%を占め、前年の92.9%から13.9%減少しました。一方で、クルーズ船による海路の構成比は20.9%となり、前年の7.0%から13.9%増加しています。来島手段の多様化が進んだ背景には、南ぬ浜町クルーズ岸壁の整備により大型船の接岸が可能となったことがあり、海路の比率上昇に大きく影響しました。この20.9%という水準は、入域観光客数が過去最多を記録した令和元年の海路構成比24.5%にも近く、来島構成全体としても令和元年に近づいています。空路が依然として中心である一方、港湾整備を契機に海路の存在感が再び高まりました。

◆入域観光客数の構成比

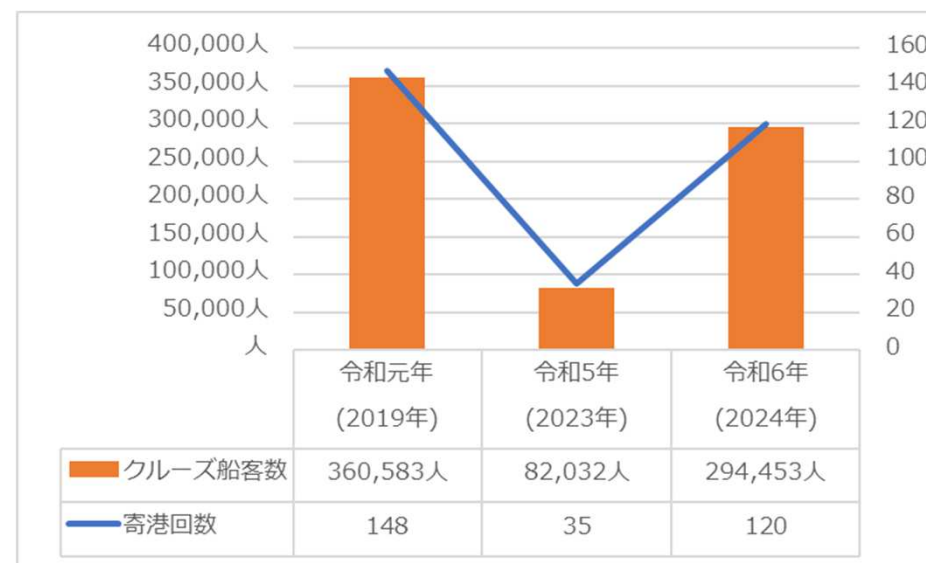


大型クルーズ再来！ 石垣港に最大5,000人規模の来島も

クルーズ船の寄港回数は前年の35回から120回へと3.4倍に、乗船客数は82,032人から295,263人へと3.6倍に増加しました。特に22万トン級の大型船が接岸可能な港湾整備が進んだことにより、一度に4,000～5,000人規模の入港が可能となり、国内外からのクルーズ観光が再活発化しました。

クルーズ船の寄港が大幅に増加する中で、観光による地域経済への効果が期待される一方、受入環境の課題も見え始めました。1回の寄港で4,000～5,000人規模の乗客が来島することもあり、観光バスやタクシーなどの移動手段が不足する場面や、観光地の混雑が発生しました。団体ツアーによる移動が限定的なため、地域での消費が十分に広がらない傾向も見られます。

◆クルーズ船客数と寄港回数



年度	入域観光客数(年間)	空路利用	海路利用
令和元年 (2019年)	1,471,691人	1,111,108人	360,583人
令和5年 (2023年)	1,180,124人	1,098,092人	82,032人
令和6年 (2024年)	1,410,881人	1,116,428人	294,453人

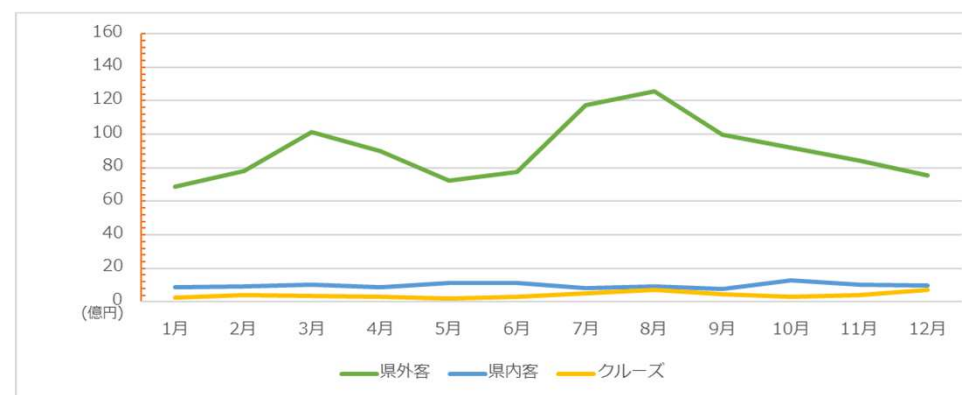
観光客数と消費額が大幅増、クルーズ客の消費額は県外客の1割強に留まる

令和6年（2024年）の観光消費額（推計値）は1250億8000万円となり、過去最高だった令和5年（978億3000万円）から28%（272億円）増と、大幅な伸びを記録しました。旅行需要の回復や円安による国内回帰、消費単価の上昇に加え、観光客数の増加が背景にあります。中でもクルーズ船の寄港回数と乗船客の増加は、全体の消費額を押し上げた一因となりました。ただし、クルーズ客1人あたりの消費額は約1万6千円で、宿泊を伴う県外客（約11万6千円）の1割強にとどまっており、地域経済への波及効果としては課題が残る結果となりました。

◆観光消費額推計（月別）



◆令和6年(2024年)観光消費額推計（属性別）





■ 1月

- ・元日に能登半島地震が発生
- ・羽田空港で航空機事故、羽田便の欠航など影響あり
- ・市内リネン工場の火災により宿泊施設でリネン不足発生
- ・第21回石垣島マラソン開催（3,410名出走）

■ 2月

- ・春節にあわせて台湾からのチャーター便運航
- ・千葉ロッテマリーンズが春季キャンプ実施
- ・台湾プロ野球・楽天モンキーズがチャーター便で来島

■ 3月

- ・観光情報発信サイト「じょーとーいしがき」運用開始
- ・海開きが行われる
- ・バス・フェリーにタッチ決済機能導入

■ 4月

- ・石垣島トライアスロン2024開催（県外から約1,000名参加）
海外からの参加者も確認

■ 5月

- ・梅雨入り
- ・コロナ5類移行後初のゴールデンウィーク
- ・第1回石垣島国際カジキ釣り大会開催
- ・市内タクシー7社にライドシェア制度認可
普通免許での運用が一部可能に

■ 6月

- ・八重山ダイビングフェスタ、ハーリー開催
- ・台琉友好親善ヨットレース開催
- ・きいやま商店が観光マナー啓発アンバサダーに就任

■ 7月

- ・台風接近により空・海路の欠航が発生
- ・オリオンビアフェスト開催
- ・市内各地で豊年祭開催

■ 8月

- ・南の島の星まつり開催
- ・旧盆行事（アンガマ・獅子舞など）各地で実施
観光と地域文化の融合が進む

■ 9月

- ・第78回とうばらーま大会開催
- ・「笑って学ぶ石垣島観光の今」
（観光課題をテーマとしたお笑いライブ）開催

■ 10月

- ・台風接近による交通影響あり
- ・「スポーツフェスティバル2024」「八重山の産業まつり」合同開催
- ・地産地消イベント「石垣島BBQ&島ぐるめフェス」
「石垣島フラフェスティバル」同時開催

■ 11月

- ・第60回石垣島まつり開催
- ・自動運転EVバスの実証運行を実施（二次交通の可能性を検証）

■ 12月

- ・石垣港に4,000～5,000人規模の大型クルーズ船が7回寄港
入域観光客数の増加に貢献

石垣空港には全国主要都市などからの定期便が就航しており、年間を通じて安定的な空路アクセスが確保されています。航空便は観光来島の主軸であり、便数や搭乗率は観光需要に大きく影響します。

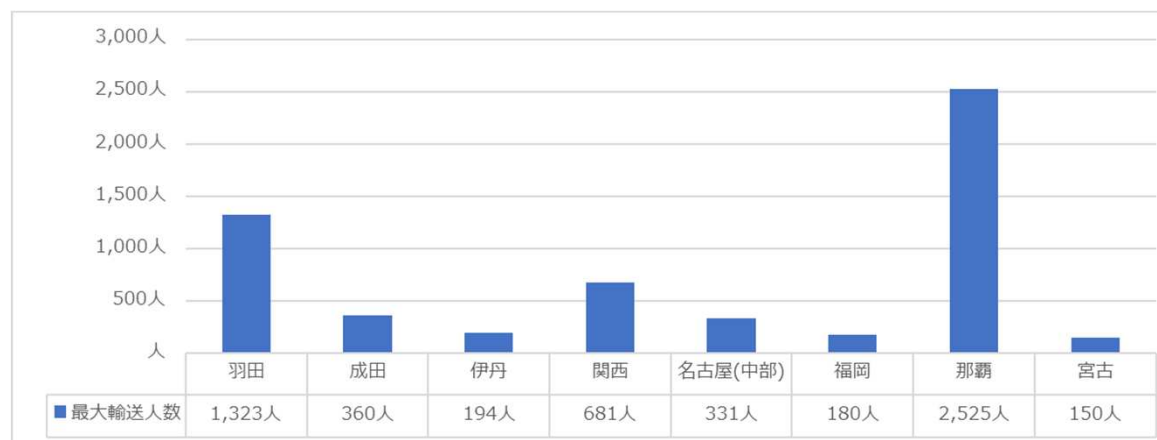
仮に1日全便が満席で運航された場合、1日あたり最大で約5,700人が空路で石垣島を訪れる計算となります。これは観光繁忙期や連休期間中に想定される実質的な輸送キャパシティの目安であり、宿泊施設・交通機関など受入側の対応が求められる規模感です。

◆主要路線と運航便数の概要

就航路線	便数/日
羽田	4
成田	2
伊丹	1
関西	4
名古屋(中部)	2
福岡	1
那覇	15
宮古	3

◆空路による1日あたりの最大来島人数（満席想定）

就航路線	便数/日	1便あたりの 平均定員	最大輸送人数
羽田	4	331人	1,323人
成田	2	180人	360人
伊丹	1	194人	194人
関西	4	170人	681人
名古屋(中部)	2	166人	331人
福岡	1	180人	180人
那覇	15	168人	2,525人
宮古	3	50人	150人
合計			5,744人



※本試算は、令和6年の中で最も入域観光客数が多かった8月の便数と機材定員をもとに概算したものです。各路線で代表的に使用されている機材を基準としていますが、実際には便や時期により運航機材や便数が異なるため、最大値の参考値としてご覧ください。

石垣市内の宿泊施設における最大収容人数は17,307人（令和5年12月時点）とされており、これは1日あたりに宿泊可能な上限を示しています。令和6年8月における空路の1日最大輸送力は約5,700人と試算されており、現状の宿泊キャパシティに対して十分な余裕があると見られます。ただし、連休やイベント開催時など一時的な集中が発生する場面では、地域や施設によって偏在が起こる可能性もあります。

◆宿泊施設の種別別・最大収容人数（石垣市内）

	軒数	客室数合計	最大収容人数
ホテル・旅館	82	4,694	12,578人
民宿	57	367	957人
ペンション・貸別荘	246	678	2,364人
ドミトリー・ゲストハウス	58	416	858人
ウィークリーマンション	15	181	550人



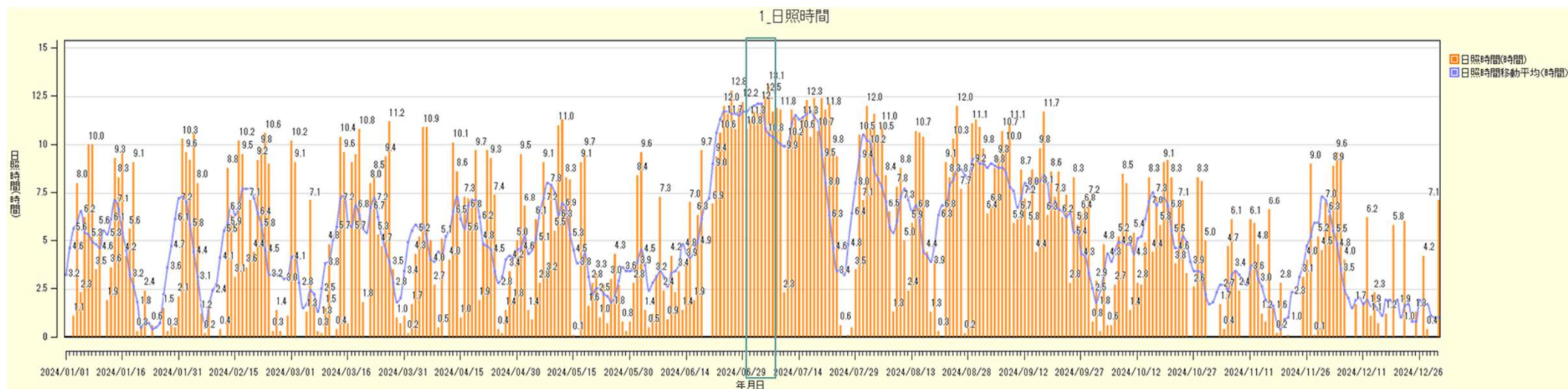
※宿泊施設データは「令和5年宿泊施設実態調査結果（沖縄県、令和6年6月25日発表）」に基づいています。

気象データにみる観光への影響と「雨の日」対策の必要性

気象条件は本市の観光にとって極めて重要であり、特に日照時間や降水量は観光客の行動や満足度に大きく影響します。2024年のデータでは、日照時間が最も長かったのは7月4日で13.1時間、7日間の移動平均では12.1時間を記録しました。

気象庁はホームページ上で過去の気象データを地点別・日ごとに検索できるようにしています。

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/daily_s1.php?prec_no=91&block_no=47918&year=2025&month=1&day=&view=

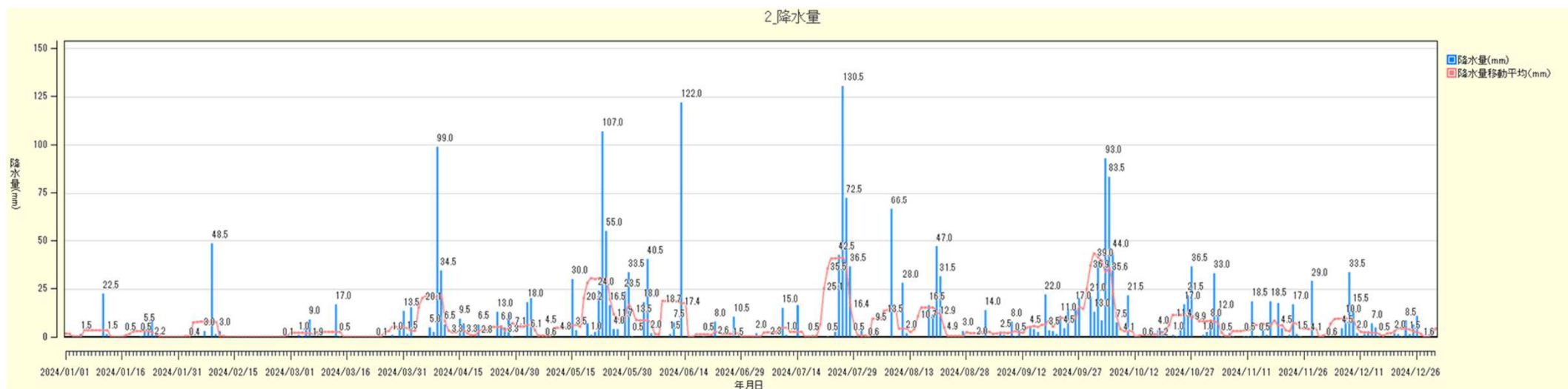


気象データにみる観光への影響と「雨の日」対策の必要性

降水量が最も多かったのは7月24日（130.5mm）で、7日間平均での最大値は10月1日（43.1mm）でした。これらの傾向から、台風や梅雨以外の雨の多い時期、曇天傾向の時期を把握することで、観光施設や事業者が「雨の日でも楽しめるコンテンツ」の充実を図る上での参考となります。

気象庁はホームページ上で過去の気象データを地点別・日ごとに検索できるようにしています。

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/daily_s1.php?prec_no=91&block_no=47918&year=2025&month=1&day=&view=



令和6年（2024年）石垣市観光 総括



令和6年 観光消費推計

(単位：人)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	構成比
県外客	観光旅行	56,707	64,345	83,211	74,144	59,728	63,946	96,392	103,196	82,015	75,739	69,444	62,195	891,062	63.2%
	帰省・業務	2,424	2,750	3,557	3,169	2,553	2,733	4,121	4,411	3,506	3,238	2,968	2,658	38,088	2.7%
	計	59,131	67,095	86,768	77,313	62,281	66,679	100,513	107,607	85,521	78,977	72,412	64,853	929,150	65.9%
県内客	観光旅行	8,133	8,547	9,555	8,407	10,442	10,490	7,652	8,767	7,183	11,908	9,497	9,170	109,751	7.8%
	帰省・業務	5,745	6,037	6,750	5,938	7,377	7,410	5,406	6,193	5,073	8,412	6,709	6,477	77,527	5.5%
	計	13,878	14,584	16,305	14,345	17,819	17,900	13,058	14,960	12,256	20,320	16,206	15,647	187,278	13.3%
海外空路		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
海外海路（クルーズ船）		17,816	28,438	26,460	18,286	11,362	17,424	27,383	40,289	27,186	16,879	22,303	40,627	294,453	20.9%
入域客計		90,825	110,117	129,533	109,944	91,462	102,003	140,954	162,856	124,963	116,176	110,921	121,127	1,410,881	100.0%

(単位：億円)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	構成比
県外客	68.94	78.22	101.15	90.13	72.60	77.73	117.18	125.45	99.70	92.07	84.42	75.60	1,083.2	86.6%
県内客	8.71	9.14	10.22	8.99	11.17	11.22	8.18	9.38	7.68	12.74	10.16	9.81	117.4	9.4%
海外空路	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0%
クルーズ	2.58	4.12	3.84	3.27	2.03	3.12	4.90	7.21	4.87	3.02	3.99	7.27	50.220	4.0%
観光収入計	80.2	91.5	115.2	102.4	85.8	92.1	130.3	142.0	112.3	107.8	98.6	92.7	1,250.8	100.0%

空路/海路	客内訳	消費単価推計	
空路	県外客	116,584	令和4年度観光統計実態調査報告書の単価を反映
	県内客	62,703	
海外空路	海外空路	111,789	令和元年度外国人観光客実態調査の単価を反映
海外海路	クルーズ客	14,520	4月分より令和6年1月11日更新の正誤表を反映
海外海路	クルーズ客	17,919	

消費推計額

1250.8億円

前年度同月
消費推計額

978.3億円

令和6年（2024年）は、石垣市観光において回復から拡大へと転じた一年となりました。年間の入域観光客数は141万人を超え、前年比で23万人の増加。すべての月で前年を上回り、2月・3月・8月・12月は過去最多を記録するなど、通年で安定した需要が見られました。

観光消費額（推計）は前年比28%増の1,250億8千万円と過去最高を更新。コロナ禍後の旅行需要回復や円安の影響、国内旅行志向の高まりが背景にあります。とりわけ注目されたのが、クルーズ船の寄港回数・乗船客数の急増です。寄港は前年の3.4倍となる120回、乗船客数も3.6倍の29.5万人に達し、観光客全体を押し上げる大きな要因となりました。海路の構成比は前年の7%から21%へと拡大し、「空路中心」から「空と海の併用」への移行が明確に表れました。

一方で、クルーズ客の消費単価は県外宿泊客の1割強にとどまり、人数の増加が地域経済に直結するとは限らない現状も浮き彫りとなりました。また、短時間滞在や交通集中といった課題もあり、受入環境の整備と観光の質的向上が求められています。

石垣市では、今後も観光の量だけでなく「地域に根差した持続可能な観光」の実現に向け、関係機関・事業者・市民と連携した取組を進めてまいります。